

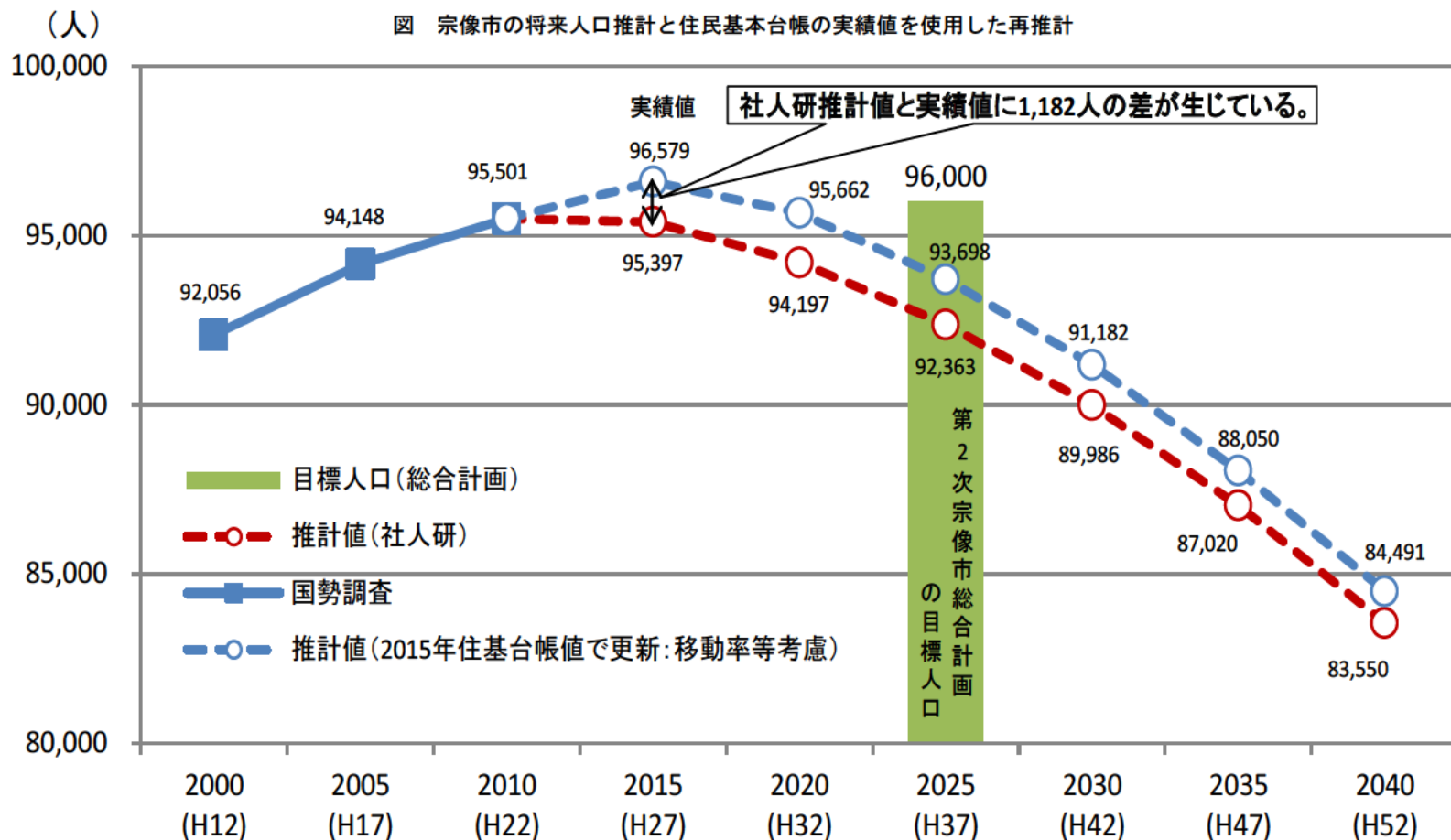
宗像市立地適正化計画の検討 ～20年後のむなカタ～

福岡県宗像市 都市再生課

1. 人口の推移と将来の人口推計

- 平成22年をピークに人口減少すると推計される。
- 30年後の平成52年には平成22年の人口の約87%になると推計される。
- 人口が減少すると将来的に人口密度の低下が予測される。

図 宗像市の将来人口推計と住民基本台帳の実績値を使用した再推計

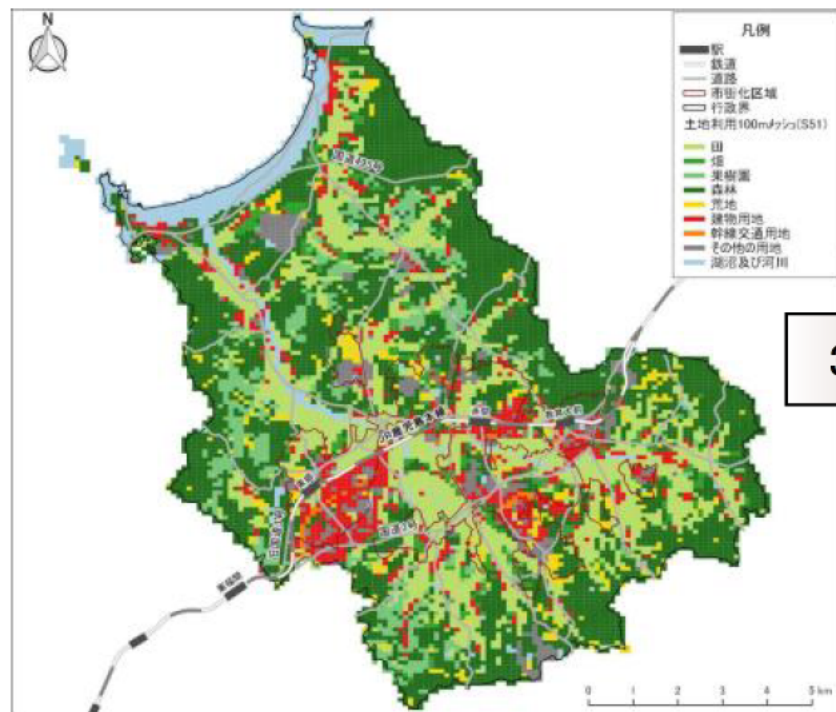


出典：国立社会保障・人口問題研究所（H25.3推計）、住民基本台帳(H27.6)

2. 土地利用状況の動向

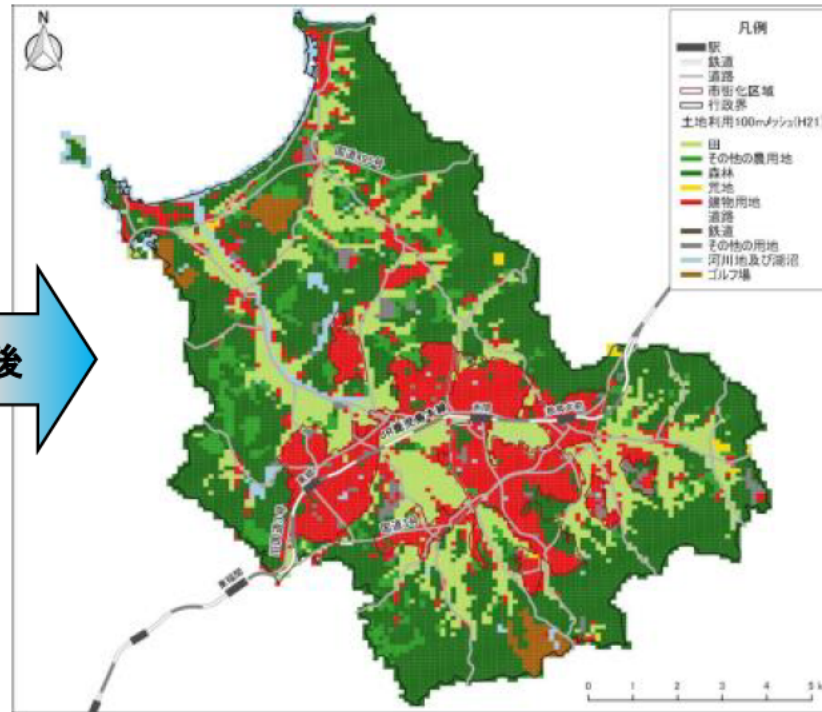
- 30年余りで建物用地面積が約2.3倍に拡大。(936ha → 2,162ha)
- 丘陵地を中心に開発が進められ、優良農地が保全。

土地利用状況図（昭和51年）



33年後

土地利用状況図（平成21年）

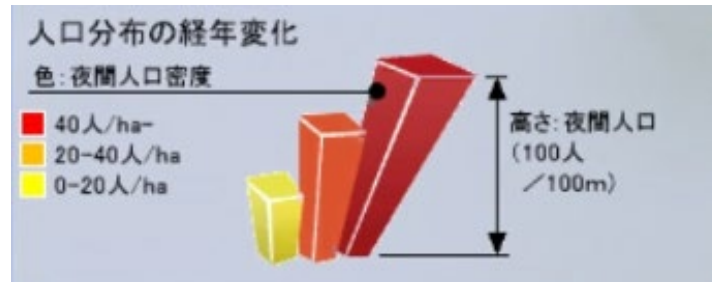


出典:国交省ホームページ国土数値情報

さらなる都市的土地利用の拡大は、新たな公共投資（道路・下水等）や維持管理費増加につながる。

3. 人口分布の経年変化

- 土地利用状況の動向と同様にまとめて宅地化された地域で人口増加している。
- 人口が郊外に拡散している。



1970年国勢調査



2010年国勢調査

4. 将来の人口分布の経年変化

- 人口減少する地域は、東郷駅周辺、赤間駅北側、自由ヶ丘地域などの市街化区域の中心部。
- 人口増加する地域は、市街化区域の縁辺部に多い。



2010年国勢調査



2040年推測

5. バスルートと生活サービス機能の分析

○生活サービス機能（商業・医療・介護福祉など）が徒歩圏に少なく、バス利便性の低い地域では、運転できない交通弱者は生活サービス機能の利用が困難となる。

図 生活サービス機能とバスルート

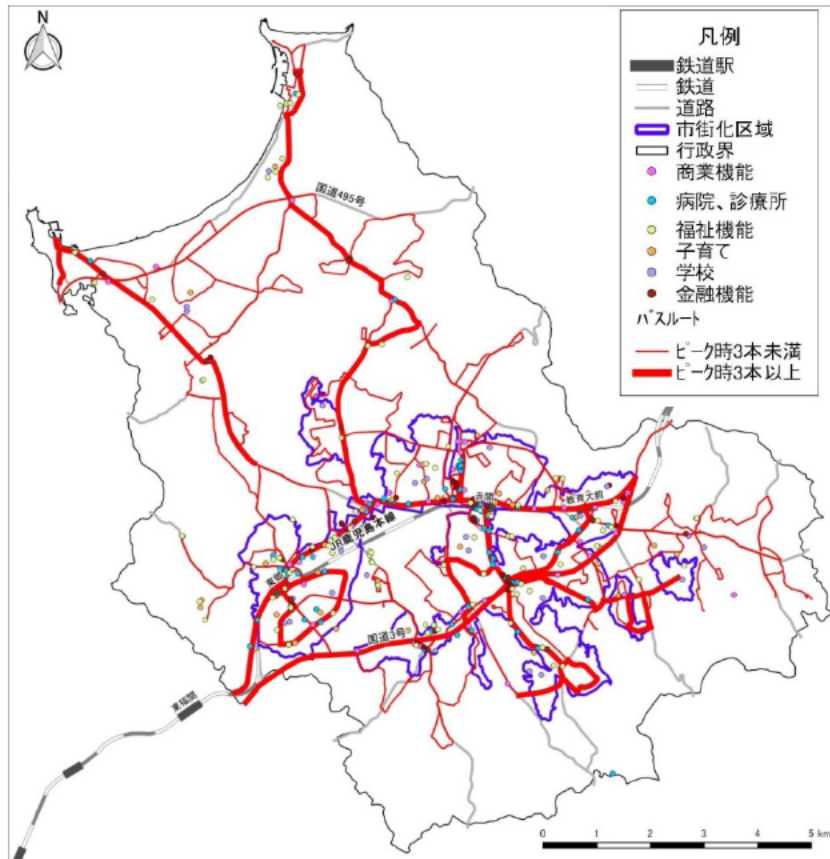
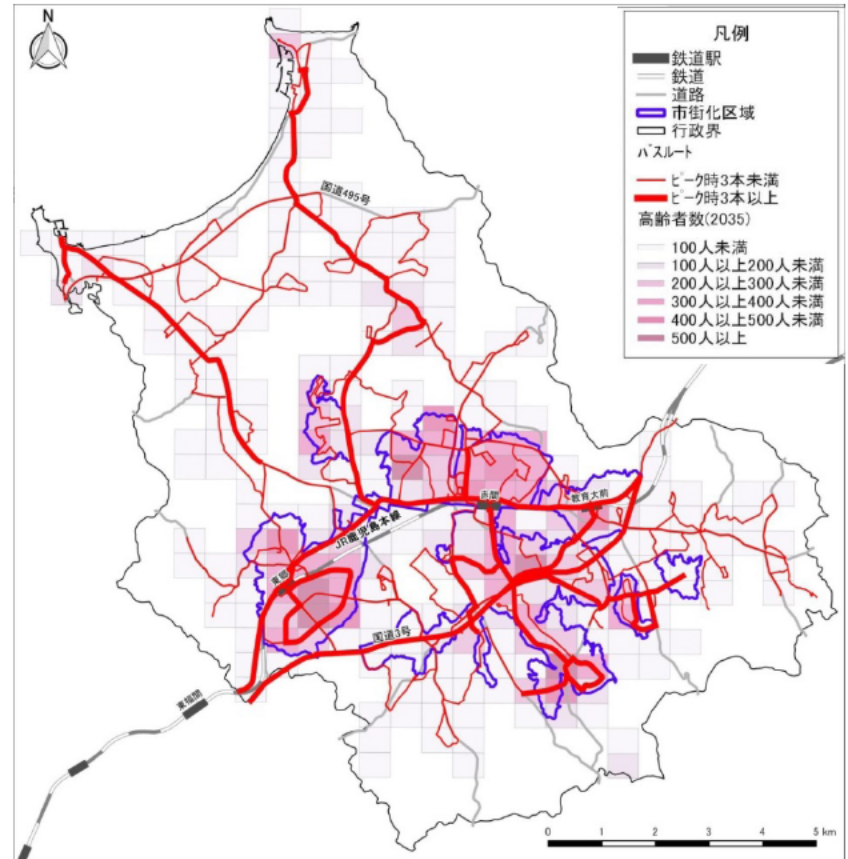


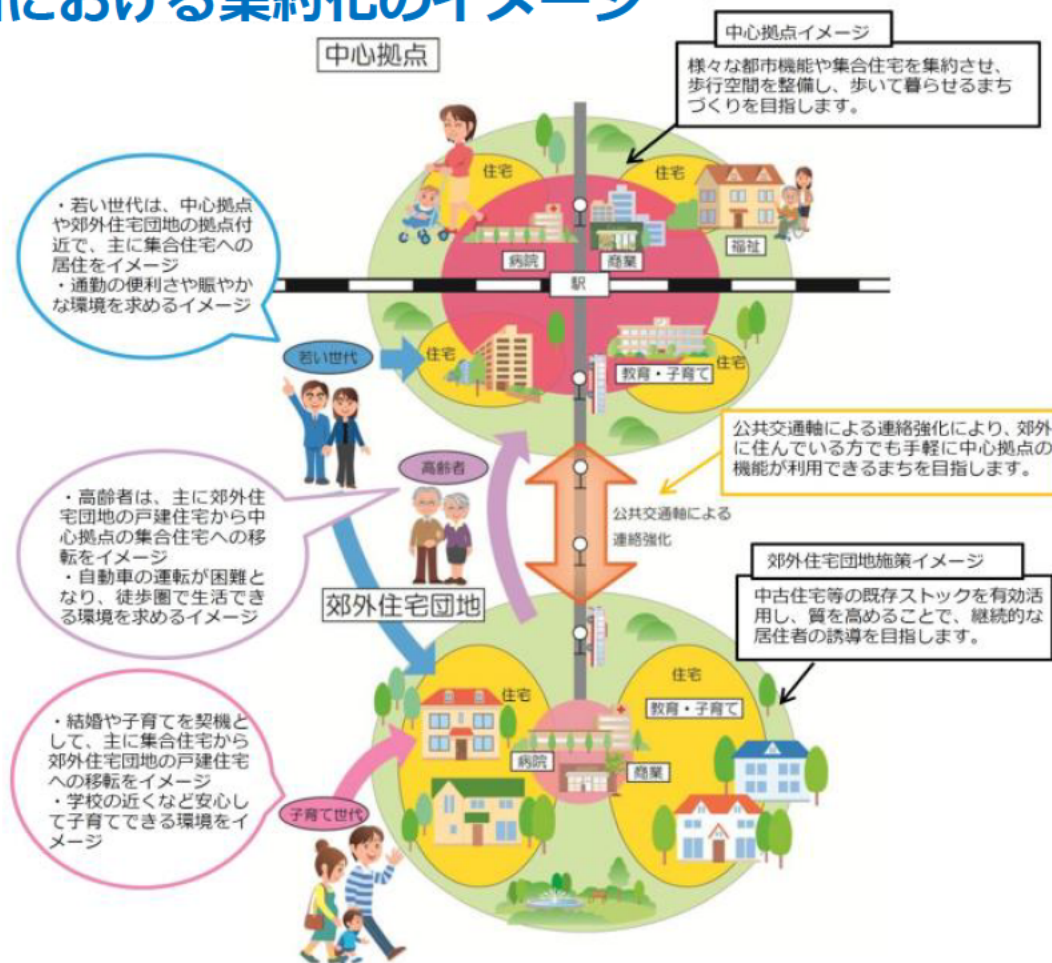
図 バスルートと高齢者数(H47)



6. 集約化の考え方

- 中心拠点や各拠点周辺でコンパクトなまちづくりを進め、本市における集約型都市構造の実現を目指す。
- 世代や家族構成の違いにより居住者分類を大きく3つに区分し、それぞれの居住者分類の大きな方向性を示す。(住み替え循環)

立地適正化計画における集約化のイメージ



福岡県宗像市 都市再生課 都市計画課